

平成 28 年 7 月 29 日

平成 28 年度 青少年創造性開発育成海外交流 中華人民共和国派遣団について

公益社団法人発明協会

公益社団法人発明協会は、去る 7 月 13 日（水）～20 日（水）まで、「平成 28 年度 青少年創造性開発海外交流中華人民共和国派遣団」を結成し、中華人民共和国 ハルビン市に派遣した。

同派遣団は、第 73 回全日本学生児童発明くふう展及び第 5 回全国少年少女チャレンジ創造コンテストにおいて優秀な成績を収めた 11 名及び当協会役職員により構成され、7 月 16 日（土）～18 日（月）まで開催された「2016 年 世界青少年発明工夫展」（2016 IEYI）に参加することを目的として結成された。

中国出発に先立ち、7 月 13 日には、発明協会において結団式が行われ、中嶋誠副会長から委嘱状が交付された。また、団員最年長の荒川和樹君が派遣団を代表し、「この機会を活かして、自分の創造性、コミュニケーション能力、語学力などを育成していけるよう、一生懸命頑張ってきます」と決意の言葉を述べた。



結団式。荒川和樹君による決意の言葉（左）と全員での記念撮影（右）

その後、関係省庁へ表敬訪問し、世界知的所有権機関（WIPO）日本事務所 大熊所長からは知的財産権の説明とともに国際交流におけるアドバイスをいただいた。続いて訪問した文部科学省では小松研究振興局長から「将来の国際関係を良くしていく上でも、今回の派遣団は重要。外国へ行くことはきっと将来の役に立つので、自分の目で見て、体で感じて経験し、友人を作ってほしい」と今回の派遣団の重要性と意義についてお話をいただいた。最後の訪問先の特許庁 小宮長官からは「創意工夫の楽しさ、作品を完成させた達成感を海外の同年代の仲間たちと語り合い、貴重な経験をしてほしい」と激励いただいた後、団員を長官室に招き貴重な資料等について説明をいただいた。翌 14 日朝、一行は中国・ハルビンへと出発した。



表敬訪問。WIPO 日本事務所（左）、文部科学省（中央）、特許庁（右）

世界青少年発明工夫展開催前日の15日には、会場である「哈爾濱国際会展体育中心」において、各作品のブースセッティングを行い、各自英語で作成した作品説明用の資料を準備したほか、ポスターや、折り紙や日本文化を表現したイラストなど思い思いのアイテムでブースの装飾を行った。

展覧会初日となる7月16日には、地元ハルビン市副市长出席のもと、開会式が挙行され、展覧会場には、開催地中国をはじめ、インドネシア、日本、マレーシア、シンガポール、タイ等から出品された94作品が展示された。



展覧会場となった哈爾濱国際会展体育中心



開会式

会場において、日本団員は、来場者や審査員への作品説明したり、地元中国の来場者や他国からの出品者とのコミュニケーションなど、海外の人たちとの交流を積極的に行った。特に、審査員への作品説明は英語が必須であるため、最初は通訳に頼りきりになったり、事前に用意していた英文のメモを読むなど苦労している様子が見られた。しかし、繰り返し説明して場数を踏んでいくうちに徐々に自信とコツを身に付け、また、当初準備していた説明内容の順番を変えたり、実演方法に変化をつけることで、より分かりやすく理解してもらえよう、各自工夫を凝らした説明も行えるようになっていった。「最初は英語の説明が上手いかなかったが、相手に理解してもらえたことがうれしかった」との感想もあり、初日こそ慣れない英語でのコミュニケーションに戸惑っていた団員たちも、二日目、三日目となると、他国の出品者たちと積極的に会話をするなど、会場全体の雰囲気を楽しむ余裕も見られた。中にはSNSの連絡先の交換を行い、交友関係を広めることができたこと自慢げに話す団員もあり、その成長力と環境適応力に子どもたちの逞しさを垣間見るこ

とができた。

また、日本団の作品の中には、是非製品化をしたほうがよいと強く勧められた作品もあり、総じて高い評価を得た。

なお、今回の世界青少年発明工夫展は、アニメーションウィーク（青少年動漫周）と併催されたため、会場には多くのコスプレイヤーも訪問した。日本発祥のコスプレが遠くハルピンの地において、発明工夫展とコラボレーションされることに日本のコンテンツ産業の勢いを肌で感じるどころとなった。



展覧会

発明工夫展最終日の18日には表彰式が行われ、成功裏に幕を閉じた。日本代表は、金メダル2作品、銀メダル3作品、銅メダル3作品、各国特別賞4作品（各メダルとの重複含む）と、全作品が受賞するという目覚ましい成果を収めることができた。



表彰式

【金メダル】

Green Technology + Technology for Special Needs 部門（14 歳未満）

水口 翔太郎（荷物らくらくん）

Education& Recreation 部門（14 歳未満）

安藤 彩乃（一人ではかれる身長計）

【銀メダル】

Education& Recreation 部門（14 歳未満）

渡邊 彩（ハイブリッドこくばん消しクリーナー）

Safety& Health 部門（14 歳以上）

小倉 広夢（光るタスキ）

Food& Agriculture + Education & Recreation 部門（14 歳以上）

神谷 昇（仮止めテープカッター）

【銅メダル】

Disaster Management + Technology for Special Needs 部門（14 歳以上）

黒澤龍之介（垂直回転軸平行車輪による全方向走行システム）

荒川 和樹（桜島の降灰量測定器「降灰君」）

Food& Agriculture + Education & Recreation 部門（14 歳以上）

先崎 悠平（立つほうき）

【中国特別賞】

荒川和樹

【タイ特別賞】

久保明弘、西村伊織、佐々木稜太郎

広島折鶴隊（Hiroshima Tourist Information Tram）

【台湾特別賞】

先崎悠平

【マカオ特別賞】

黒澤龍之介

また、閉会セレモニーにおいて、扇谷団長より、来年 2017 年の世界青少年発明工夫展を日本で開催することを発表した。日本開催では、発明作品と絵画の二部門制とし、20 カ国 200 人の参加を目標とする旨をスピーチすると各国より期待の声が寄せられた。

19 日には市内視察を行い異国情緒を満喫した日本団員は、翌 20 日に帰国し、解団した。

8 日間という短期間ではあったが、日常生活では得られない貴重な経験をした団員の今後更なる創造性の伸長に期待したい。

2016 世界青少年発明工夫展

(1) 主催

中国教育国際交流協会

China Education Association for International Exchange -International
Teenage Competition and Communication Center (ITCCC)

(2) 行事名称

2016 年世界青少年発明工夫展

International Exhibition for Young Inventors : 2016 IEYI

(3) 開催場所

中華人民共和国哈爾濱（ハルビン）市 哈爾濱国際会展体育中心 ホール A

(4) 展覧会開催期間

平成 28 年 7 月 16 日（土）～18 日（月）

(5) 参加国・人数

10 か国・地域（94 作品、197 名）

	日本	中国	インドネシア	エジプト	シンガポール	マレーシア	タイ	台湾	香港	マカオ	計
作品	9	12	3	10	3	16	6	29	1	5	94
人数	11	28	5	13	9	44	12	64	1	10	197

青少年創造性開発育成海外交流 中華人民共和国派遣団

① 団長 扇谷 高男（公社）発明協会 常務理事

② 副団長 前野 士郎 // 青少年創造性グループ 主管

③ 秘書長 橋岡 智和 // // 課長補佐

④ 事務長 佐久間彩子 // // 主事

⑤ 主席団員 赤井 寛子 // // 職員

団員

(第 73 回全日本学生児童発明くふう展受賞者)

⑥ 黒澤龍之介	北海道立室蘭栄高等学校	1 年	恩賜記念賞
⑦ 水口翔太郎	山口県 下関市立文洋中学校	1 年	内閣総理大臣賞
⑧ 渡邊 彩	岩手県 奥州市立水沢南中学校	1 年	文部科学大臣賞
⑨ 荒川 和樹	筑波大学理工学部工学システム科	1 年	経済産業大臣賞
⑩ 神谷 昇	愛知県 知立市立知立中学校	2 年	特許庁長官賞
⑪ 先崎 悠平	福島県立安積黎明高校	1 年	発明協会会長賞
⑫ 小倉 広夢	千葉県立君津高等学校	2 年	発明協会会長賞
⑬ 安藤 彩乃	千葉県 四街道市立吉岡小学校	5 年	日本弁理士会会長賞

(第5回全国少年少女チャレンジ創造コンテスト受賞者)

⑭久保 明弘	広島県立広島井口高等学校	1年	文部科学大臣賞
⑮佐々木稜太郎	広島市立口田中学校	3年	〃
⑯西村 伊織	広島県立廿日市高等学校	1年	〃

以上16名

※本事業は、競輪の補助を受けて実施しました。



以上